

やめよ！徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信

No. 13 ('97. 10. 23)

事務局 ☎ 0584(78)4119

大垣市本町2-27 FAX 0584(82)4119

10/5 旧徳山村集団移転地及び 藤橋村への戸別ビラ入れ

<旧徳山村・移転地> 「今さら…でも、今だからやめられる徳山ダム」「ダムを作るお金を森の保全と再生に」と題したビラを、表山・文殊・網代・糸貫・芝原の集団移転の団地に配布しました。団地内で顔を合わせる人々は好意的でした。また、この日から11月2日まで、本巣町（文殊・網代団地がある）の歴史民俗資料館で「今よみがえる徳山村の文化と暮らし展」（主催：徳山村離村10周年記念特別展実行委員会、協力：水資源公團徳山ダム建設所・岐阜県文化財保護センター）が開催されるということで、展示を見せてもらいました。移転前にそれぞれの家の前で撮った写真のアルバムが置かれていました。複雑な思いです。この企画の中には「縄文遺跡と徳山ダム見学会」（200名募集）もありますが、すぐ満員になったそうです。徳山の地への関心の高さが窺われます。

このビラ入れの後、「もっとビラ入れを」というご意見を含め、好意的なお電話をいくつか頂きました。

<藤橋村> 先回（8/17）のビラ入れの後にもすぐ、賛意を表明するお電話が事務局に入りましたが、今回もお葉書やお手紙を頂きました。

上記のような活動のなかで、以下のような情報が寄せられました。

旧徳山地域の不法伐採 磐谷での不法伐採は、一応止まっていますが、根（所有者の「切り急ぎ」、所有者が遠方に在住することによる盗伐など。もっと根本的には森林保全に責任をもつ行政がどこにも存在しないこと）は解決していません。「磐谷だけでなく、戸入の方でも盗伐がある」という情報を頂きました。山林の所有関係などは、私たちではよくわからないだけに、口では「山林の保全は大切」という行政のきちんとした対応を要求していきたいと思います。

杉原ダム集水域での産廃不法投棄 徳山ダムの下池・杉原ダム建設予定地に流れ込む原谷川で、長期にわたって、産廃（自動車解体後の配線部品など）の不法投棄と野焼きが行われていたことがわかりました。現地に行ってみると、灰は冷えていても悪臭があり、しばらく居ただけでその後数時間も頭痛がしていました。原谷川の河川敷は直接には藤橋村の管理下で、2年前に藤橋村議会で問題にされました。今まで放置され、継続的に野焼きが行われてきました。今回、ようやく保健所の撤去命令が出され、一部が撤去されました。全面撤去まで、しっかり監視をしなければ、と思います。

徳山ダム建設中止を求める会のホームページ

[<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/1214>] まだ、できたばかりです。内容はこれからボツボツ充実させていきます。事務局宛のEメールは tokuyama@geocities.co.jp 次号から「やめよ！徳山ダム」をEメールで送れるようにしたいと考えています。Eメールでの送付をご希望の方、事務局までアドレスをお知らせ下さい。

「世界河川会議」に異議あり

海外パネラーに手紙を出し、インターネットのホームページに載せました。賛同して頂ける方は、事務局までご一報下さい。

人と川の共生をめざして日ごろ活動している私たちは、11月19日・20日に日本の岐阜県岐阜市で行われる「世界河川会議(WORLD RIVER CONFERENCE)」にあなたが参加されると聞き、困惑しています。なぜなら、この会議の主催者達及び後援・協賛団体のこれまでのやり方、現在の言動を見ると、この会議のテーマ=人と川の共生を本気で考えているとは思えないからです。とりわけ世界河川会議実行委員会会長・梶原拓岐阜県知事は、日本で最も河川を痛めつけてきた行政責任者の一人です。

長良川について〔長良川河口堰〕：梶原氏は、日本ではきわめて稀な「本流にダムのない清流」であった長良川の河口に、多くの人々の反対を押し切って堰を作らせました。長良川河口堰に反対する声は、日本のダム反対運動の象徴ともなっています。河口堰運用の結果、長良川の環境は台なしになり、多くの生物が壊滅的な被害を受けています。あまりにもひどい環境破壊に、「堰のゲートを上げよ」という人々の声は日増しに高まっていますが、梶原氏は耳を傾けようとしません。

木曽川について〔御嵩町・産廃処理施設〕：木曽川中流部の御嵩町に、産廃処理施設建設計画が持ち上がり、御嵩町の住民は住民投票を実施して産廃処理施設建設を拒否しました。建設予定地があまりにも木曽川に近く、深刻な汚染があったときには、木曽川から飲料水の供給を受けている下流の500万人の人々に危険が及ぶからです。その御嵩町の住民投票に至る運動の過程で、岐阜県の圧力に屈せず産廃処理施設の問題点を指摘してきた御嵩町町長が暴漢に襲われ、瀕死の重傷を負うという事件まで起こりました。今もなお、圧倒的多数が産廃処理施設建設に反対するという御嵩町民の住民投票で明白な意思表示を、梶原岐阜県知事は尊重しようとしていません。

揖斐川について〔徳山ダム〕：40年前、最上流部に巨大ダムを建設するという計画が立てられ、水没地の住民の移転によって一つの村が消えました。しかしダム建設の主な目的である利水は、現在では全く必要がなくなっています。治水面では、最上流部のダムによって過大に見積もられたな高水量を調整するという不適切な計画です。また発電では、風力発電などの未来型発電の実験施設よりも建設コストが高いという不合理なものです、その一方、水没を予定される地域には、絶滅危惧種のイヌワシなど貴重な生物が棲息しています。しかし梶原氏は、このダム計画の見直しに反対し「早期完成」推進に固執しています。

日本の行政は、「環境への配慮」は口先だけで、実際には河川を破壊し続けています。あなたが、真に「人と川の共生」を図ろうとし、未来の世代に対して地球環境を保全する責任を負おうとするなら、貴国・自治体の「人と川の共生」を図る具体的方策を明らかにし、NGOとの協力関係のあり方も指示して下さい。人類の未来のために河川環境を守ろうとするあなたの良識に期待します。

朝
19/23

海外出席者へ
抗議文を送る
河川会議で環境団体
十一月十九、二十日に岐
阜市の長良川国際会議場で
開かれる「世界河川会議」
(岐阜、愛知、三重県によ
る同実行委員会主催)につ
いて、県内の複数の環境保
護団体が「木曽三川の環境
破壊にかかわった岐阜県が
主催するのはおかしい」と、
海外からの出席者七人
に対し、二十二日までに抗
議の文書を電子メールなど
で送った。
抗議しているのは、徳山
ダム建設中止を求める会
(上田武夫会長)など十二
団体。長良川河口せき建設
などを擧げて、これらの河
川破壊に県が手を貸してい
るとの非難。出席者はこのこ
とを認知して、それぞれの
国でよりよい環境保護の方
策を探るように求めている。
抗議文の原文は、「中止
を求める会」のホームページ
(<http://www.geocities.co.jp/WallStreet/1214>) に掲載さ
れてある。

宛先

Nay Htun (国連事務次長補 (UNDP総裁補)) / Chris Harpley (環境庁テハズ地域マネージャー代行)

Jane Nishida (メリーランド州環境庁長官アドバイス) / 黎 安田 (長江水利委員会主任)

Bhichit Rattakut (バンコク首都圏知事)

Alain Rivron (パリ市セーヌ川活性化担当助役) / Gerrit Blom (水管管理庁長官)

差出人団体

長良川から: 長良川河口堰建設差止訴訟原告・弁護団 / 長良川河口堰建設差止訴訟サポートネットワーク

長良川を愛する会 / サツキマスを守る会 / 岐阜2001年の会 / 郡上八幡清流カレッジ

木曽川から: みたけ産廃を考える会 / 木曽川流域住民の会 / みたけ・500万人の水トラスト

巨大産業廃棄物処分場計画から木曽川・500万人の水を守る会

揖斐川から: 徳山ダム建設中止を求める会 / 地域情報システム研究所

幹事団体: 徳山ダム建設中止を求める会

中部地建 「対話拒否」の口実の破綻

中部地建は私たちの「対話」要求に対して「『徳山ダム・地域の方々との集い』を行う、そこに来てほしい」と称して拒否している。ところが、事務局が10月13日に公團に問い合わせ

せたときには「場所・日程とも検討中」だった「集い」が22日に海津町で開催されていた。情報秘匿に抗議すると「決定したのは15日」と言う。しかし10月6日の海津町の町報に建設省側のチラシが折り込まれていたことが判明。「広く地域の方々の意見を聞く」云々が全く嘘であり、私たちとの対話拒否はまさに拒否でしかないことが一層明らかになった。

建設省は対話を再開せよ!

岐阜・高鷲村の
スキー場計画

中日
中日

村長に情報公開要求

板取の川浦
水力発電所

中日
中日
村議全員
一致可決

中電と協定書交換

建設打診からわずか5年



丸山ダムでの鎮魂祭企
画した陳玉華さん(右)
加茂郡八百津町蔵向
7434.

ど、鮮やかな服装、華麗な
歌舞が符間。企画の要所
時間は1時間だが、当日
は魂を呼び集め、消める節
分を中心に行われる。フオ
ークシンガー金沢栄さん
の歌、作家権治良さんの
詩の朗誦などもある。
実行委員会多くの人の
参加と協賛金のカンパを呼
び掛けている。問い合わせ
は中津川市の下島義輔さ
ん、電話052-3(66)

伝統芸能演出家・陳さんら企画

ある陳さんは同ダムを訪ね
たのは昨年八月。朝鮮人の
強制連行の記録を調査して
いる「ピッタムの会」の金
蓮珠(キム・ボンス)さん
の案内だった。陳さんの祖父も強制連行
され、日本で怨恨に死んで
いる。丸山ダムのほとりに立つ
いたい」と伸びてつく
った丸山ダム犠牲者鎮魂祭実行
委員会が主催する。朝鮮人の強
制連行・強制労働の現場は全国
に多数あるが、ムーディによる
本格的な鎮魂祭が営まれるのは
国内で初めて。

韓国式、歌舞で追悼
鎮魂祭は十一月三十日
午前十一時から、八百津町
広場で開かれる。オフィセ
ナムクッは、太鼓、長鼓、
小鉦など多彩な楽器構成

丸山ダムで
11月に鎮魂祭
津八町百

といふ。

陳さんの呼び掛けに、名
古屋市で民族伝統文化を研
究している吉田韓國・朝鮮
人、三田のゲループノ
リパン、眞内の朝鮮人強
制連行の実態を調査してい
る郷土研究会(加藤明
代表が主宰)、クリエイ
ティブなまどるは、韓
国重要無形文化財の「南海
特別神社保存会」だ。

陳さんはこのほど、执行
委員会メンバーとともに丸
山ダムを再訪。「日本人も
韓国人も、強制連行の歴史
を忘れないでいる。歴史の
頭が遠いている感
き、魂が遠んでいる感
じた」「そうだ。同時に、被
害者の恨み(ハニ)を解き、
韓国と日本の良心的な市民
が出会い、共生を目指す場
として鎮魂祭を思い立た
せた」と語った。

岐阜県は要らない水を386億円で買う

岐阜 1%

再三指摘している通り、岐阜県では木曽川・岩屋ダムの利水分の8割以上、5t/秒については使う計画もなく、一般会計から支払っている。その上で、徳山ダムの水を5t/秒、岩屋ダムの84倍（水道水）の値段の水を買うというのである。西濃地区の住民は無理やり「高い、まずい、危険な（揖斐川上流部での産廃不法投棄が続々と発見されている）」を飲まされることになる。しかも「具体的な供給計画はない」という状態で、押し付けられることだけは決まっている市や町の方は、何の計画も対策も持っていない。小倉・大垣市長は「徳山ダム建設推進」の旗頭だが、大垣市は2005年までに水源の深井戸を増設する予定があり、徳山ダムの水については「何も考えていない」。市民へのツケ回しは「もう戻りできない」状態になって初めて表に出てくるのだ。

返水
利
上
権
名
古
屋
市
は
割
高
負
担

県の負担は386億円

徳山ダム利水関係建設費

9/1 大垣市議会議員への質問

前号までにお伝えした通り、大垣市から藤橋村への“8000万円プレゼント”は、9月定例市議会で「減額補正」となりました。「結局は支出しなかったから良い」で済むことではありません。なぜこういう不適切な予算が議会を通ってしまうのか、その問題点について、関係委員会（広域圏対策委員会）にかかわる議員11名に質問状を出しました。予想通り（？）回答は杉原幸子議員からだけでした。

質問及び回答要旨（【】内は杉原議員からの回答） 6月27日以来の藤橋村で問題の真相はまだ不明だが、背景にはダムを理由にした様々な協力金や補助金の流入と支出がある。藤橋村自体が予算化できないような建物に関連する「助成」を大垣市が予算化し、それが議会を通ったことを、市民としては甚だ疑問に思う。こうしたことを未然に防ぐには何が必要かを考える資料にしたいと考える。

（1）藤橋村への助成金について、賛成したか、反対したか。

◇賛成議員に： ①「交流ドーム」に関連して大垣市が助成金を出すことのメリットは？ ②「交流ドーム」は藤橋村住民にとってどういうメリットがあるか？ ③その他の意見。

◇反対議員に： 反対の理由は？ 【（1）95年9月以来、徳山ダム計画を見直すこと、疑問が明らかにされない限り中止すべきであると求めてきた。（2）今後莫大な市民負担が予測されるのに「恩恵を受けるから1億円」はとんでもない。（3）藤橋村の独自計画に大垣市が“つかみ金”を出すのは筋が通らない。】

（2）この案件は当初「1億円」で提案されたのを委員会討議の結果「8000万円」に修正したが、その経緯は？ 【1/31の広域圏対策委を傍聴、番外議員として反対。その場で「大垣市民の利用の見通しがはっきりしない」という意見が出たが、2/14「予測資料」が出され、所属委員が全員賛成。】

（3）減額補正を余儀なくされた。①この主要な原因と責任はどこにあるか。【藤橋村での事件、名古屋市の返上などの背景があるだろう。県当局が間に入ってまとめようとした経過があるようだ。県当局の言ふことは何でも鵜呑みにする小倉市長の姿勢、わが党以外はオール与党で何でも賛成することに大きな問題がある。】 ②こうした不適切な案件を議会でチェックするためには、何が必要か。【徳山ダムに対する市民の関心を高めること、市の情報公開を市民本位にしていくこと、など】

（4）その他、議会が行政をチェックする機能を高めるために必要だと思われる事柄。【市民の関心を高めるために、日ごろの宣伝、啓蒙活動が必要】